

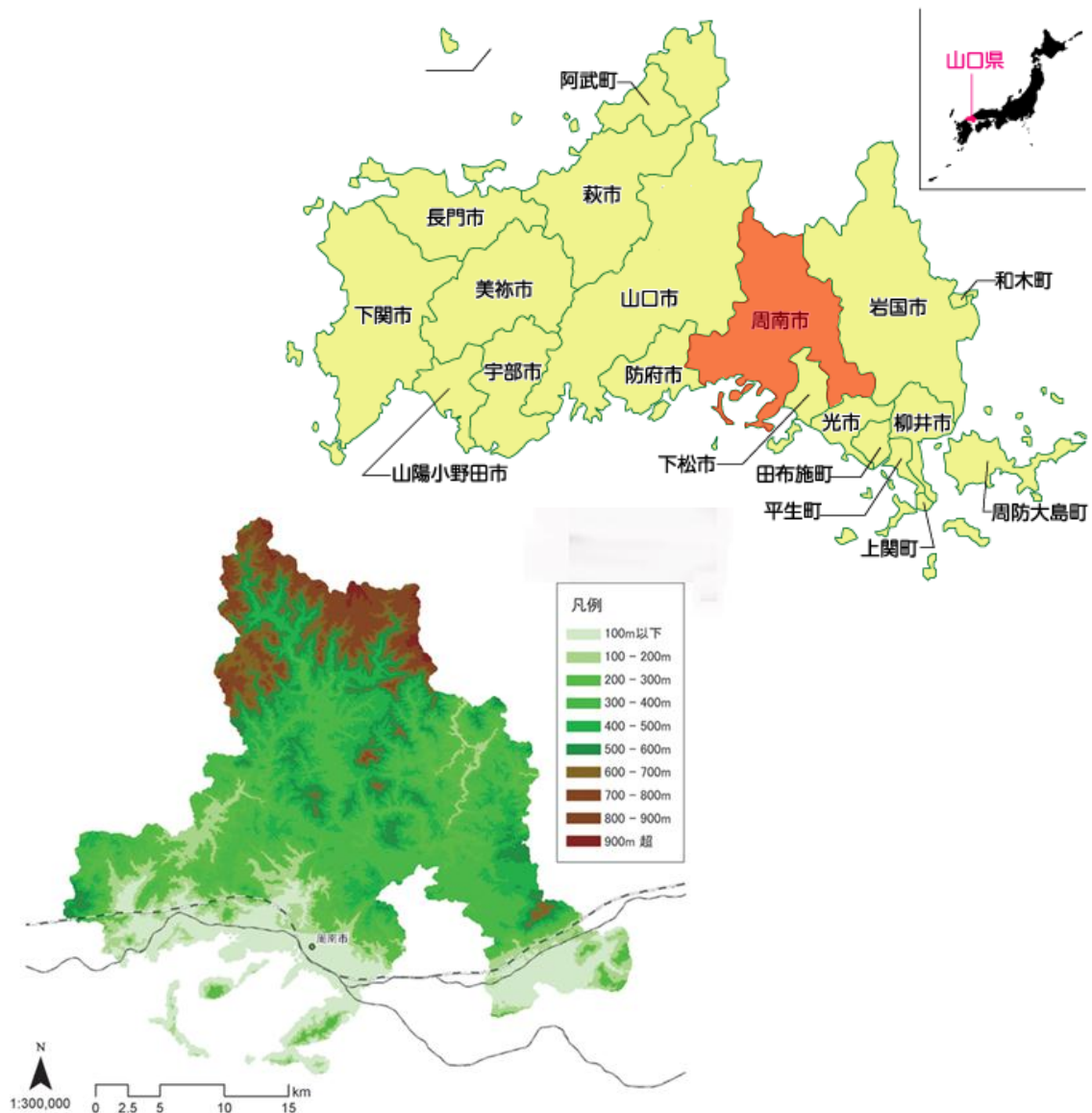
- 基本計画の名称：周南市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：山口県周南市
- 計画期間：平成25年4月～平成30年3月まで（5年）

## 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### [1] 周南市の概況

#### (1) 位置・地勢

本市は、山口県の東南部に位置し、北は島根県鹿足郡吉賀町、東は岩国市、光市及び下松市、西は山口市及び防府市と接する、人口約15万人、面積656.32平方キロメートルの都市である。市域の北部には中国山地が広がり、瀬戸内海を臨む南部の半島部や島しょ部は瀬戸内海国立公園区域にも指定される美しい景観を有している。平野部の海岸線に沿って大規模な工場が立地し、それに接して東西に長い市街地が形成されている。市域の大半は山林で占められていて、宅地は28.34平方キロメートルと市域全体の約4.3パーセントである。



## (2) 沿革

本市は、中世において、大内氏、その滅亡後は毛利氏の支配下にあった周防国に属していた。江戸時代に、萩藩の支藩である徳山藩が置かれ、徳山陣屋を中心とした町並みが形成された。明治時代以降、天然の良港を活かして設置された海軍煉炭製造所（後の海軍燃料廠）とともに発展し、戦後は旧海軍施設の土地を利用して産業基盤の整備が進められ、昭和39年に「工業整備特別地域整備促進法」の適用を受けて、石油化学コンビナートを中心に工場が集積が進み、戦後の復興と併せて全国有数の工業地帯にまで発展した。

平成15年に、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して「周南市」が誕生し、「県勢発展をリードする一元気発信都市ーの創造」を基本目標として新たなまちづくりを進めている。

図 昭和10年の市街地



## (3) 産業

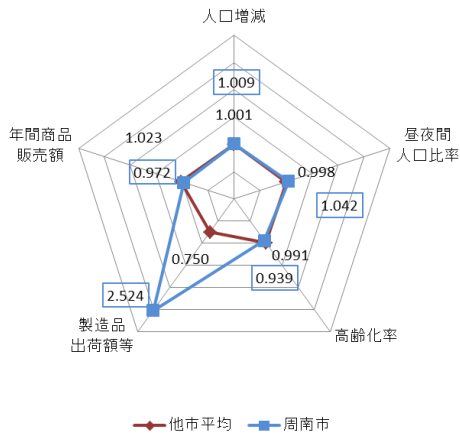
本市の産業構造を平成22年国勢調査における就業者割合で見ると、第1次産業3.5%、第2次産業31.7%、第3次産業64.7%となっており、全国平均（第1次産業4.2%、第2次産業25.2%、第3次産業70.6%）と比べて第2次産業の割合が高い。

第1次産業は、中山間地域を中心に米や野菜、果物、畜産物といった多種多様な農産物が生産されている。特に市北部では、その地形や気候を活かして梨やぶどう、茶、わさびなどが栽培され、特色ある農業が展開されている。

第2次産業は、全国有数の石油化学コンビナートを中心に、化学や石油、鉄鋼等の基礎素材型産業を核として発展してきており、平成22年工業統計調査による製造品等出荷額は約1兆6,503億円と県全体の4分の1強を占め、山口県の工業の中心的役割を果たしている。

第3次産業は、古くから多くの企業が立地していたため、JR徳山駅周辺に県下有数の小売業等が集積立地する繁華街が形成され発展してきたが、近年は、企業の事業所の統廃合による市外への支店等の移転や市外の郊外型商業施設の利用が増え、低迷している。

県内他市との比較



- ①人口増減: 山口県の H22/H17年人口比率 97.2%を1.0としたときの人口増減比率を比較。
- ②昼夜間人口比率: 山口県の平成22年昼夜間人口比率99.5%を1.0としたときの昼夜間人口比率を比較。
- ③高齢化: 山口県の平成22年の高齢化率27.9%を1.0としたときの高齢化率を比較。
- ④人口1人当たり製造品出荷額等: 山口県の平成22年の人口1人当たり製造品出荷額等437.4万円/人を1.0としたときの人口1人当たり製造品出荷額を比較。
- ⑤人口1人当たり年間商品販売額: 山口県の平成19年の人口1人当たり年間販売額99.8万円/人を1.0としたときの人口1人当たり年間商品販売額を比較。

	人口			人口流動		高齢化		製造業		小売業	
	平成17年人口 (人)	平成22年人口 (人)	H22/H17人口比率 (%)	平成22年昼間人口 (人)	昼夜間人口比率 (%)	平成22年高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	平成22年製造品出荷額等 (百万円)	人口1人当たり出荷額 (万円/人)	平成19年年間商品販売額 (百万円)	人口1人当たり販売額 (万円/人)
山口県合計	1,492,606	1,451,338	97.2%	1,444,127	99.5%	404,694	27.9%	6,348,744	437.4	1,485,591	99.8
下関市	290,693	280,947	96.6%	276,979	98.6%	80,199	28.5%	570,958	203.2	293,016	101.8
宇部市	178,955	173,772	97.1%	175,324	100.9%	44,979	25.9%	502,650	289.3	174,936	99.7
山口市	199,297	196,628	98.7%	198,863	101.1%	46,709	23.8%	173,923	88.5	217,254	111.3
萩市	57,990	53,747	92.7%	52,845	98.3%	18,833	35.0%	25,320	47.1	51,267	88.4
防府市	116,818	116,611	99.8%	114,573	98.3%	29,506	25.3%	1,003,475	860.5	121,738	102.8
下松市	53,509	55,012	102.8%	56,043	101.9%	13,790	25.1%	284,313	516.8	85,053	154.3
岩国市	149,702	143,857	96.1%	141,322	98.2%	41,912	29.1%	297,100	206.5	143,789	95.7
光市	53,971	53,004	98.2%	50,450	95.2%	15,080	28.5%	457,720	863.6	44,567	81.1
長門市	41,127	38,349	93.2%	37,714	98.3%	13,249	34.5%	50,480	131.6	37,910	92.2
柳井市	35,927	34,730	96.7%	35,913	103.4%	11,247	32.4%	29,247	84.2	47,795	131.4
美祢市	29,839	28,630	95.9%	28,647	100.1%	9,433	32.9%	113,102	395.0	22,270	74.2
周南市	152,387	149,487	98.1%	154,999	103.7%	39,122	26.2%	1,650,275	1,104.0	149,071	97.0
山陽小野田市	66,261	64,550	97.4%	62,108	96.2%	17,583	27.2%	557,571	863.8	56,076	83.9
他市合計	1,274,089	1,239,837	97.3%	1,230,781	99.3%	342,520	27.6%	4,065,859	327.9	1,295,671	102.1

※現時点の市域に基づく数値に換算している。

資料: 国勢調査、工業統計調査、商業統計調査



## [2] 中心市街地の概況

### (1) 中心市街地の概要

本市の市街地は、沿岸部の工場地帯と北部の山地部に挟まれ、南北に狭く東西に細長い形状をしている。江戸時代に、萩藩の支藩である徳山藩の陣屋が下松から野上村の金剛山麓に移転され、地名が徳山に改められた。この徳山開府に伴って家中諸士の屋敷割が行われ、この時に城下町としての基盤が整えられた。明治期には、沿岸部に海軍煉炭製造所が設置されたことを契機に工業都市化が進み、これに伴って中心市街地も地域の行政・商業・サービスの中心地として栄えた。太平洋戦争中は徳山港が海軍要港に指定されていたことから、戦争末期には二度の空襲により徳山の市街地の大半が焼失したが、終戦直後の戦災復興土地区画整理事業により、現在の中心市街地の都市基盤が形成された。また、JR徳山駅を中心に商業地や業務地、住宅地が形成され、市役所をはじめ、図書館、山口県周南総合庁舎、小学校、幼稚園、徳山港、公園、郵便局、金融機関、医療機関など各種公共公益施設が集積している。こうした高度な都市機能を背景に、山口県最大の商業地として本市の中心市街地は大きく発展してきたが、近年は中心商店街の空洞化が進むなど、かつてのにぎわいが失われている。

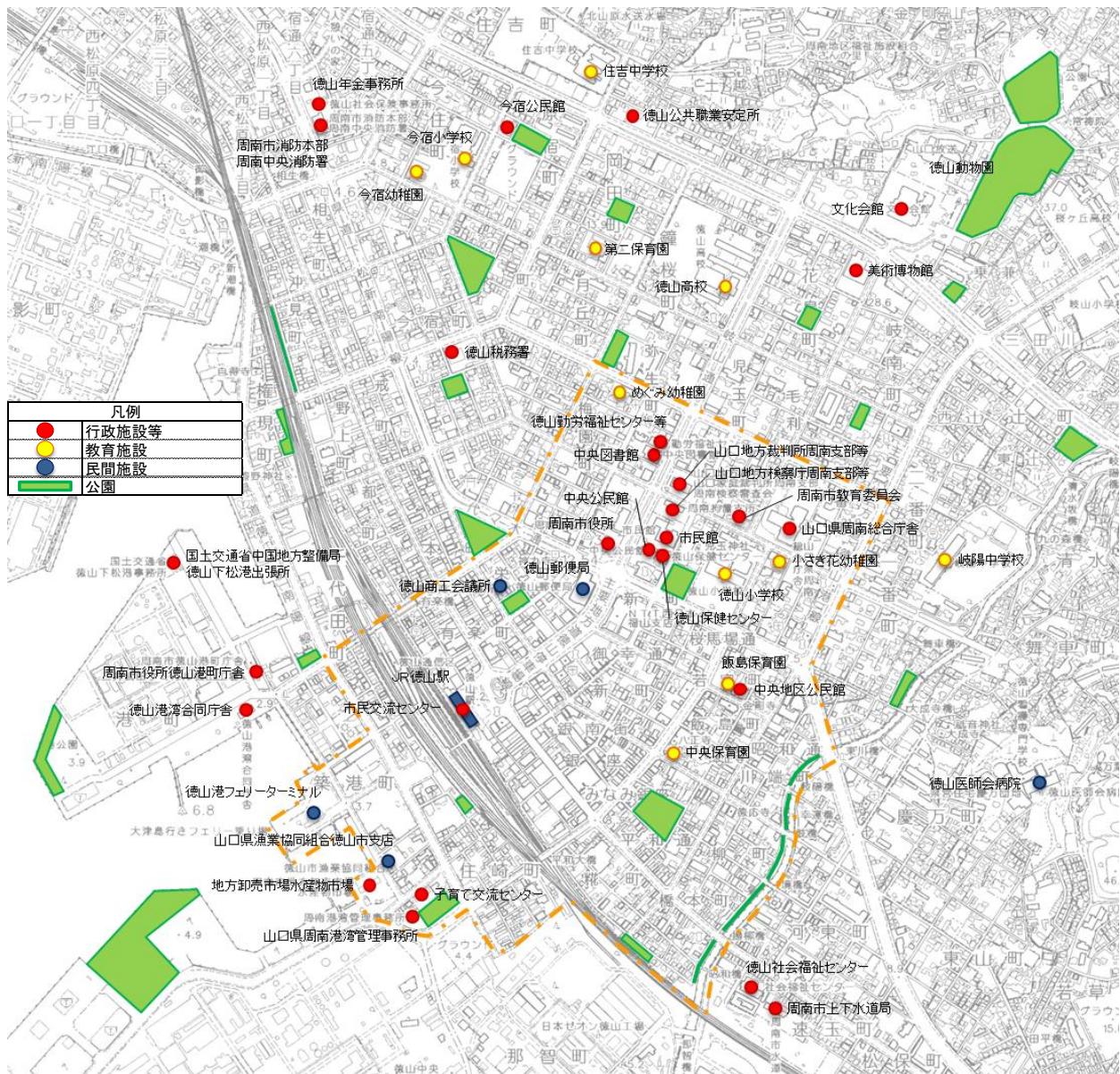
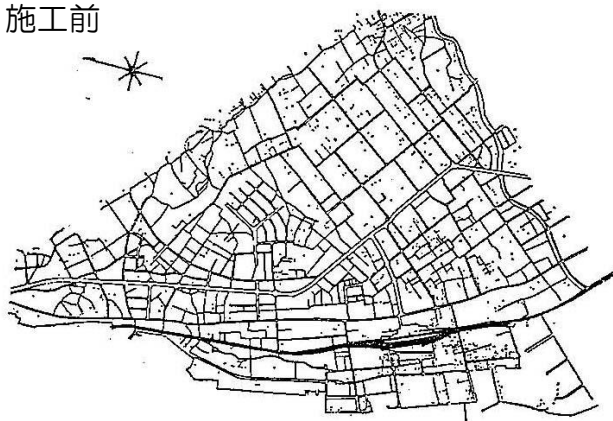
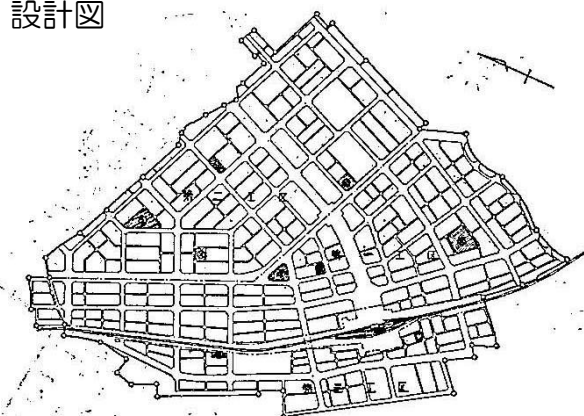


図 徳山市戦災復興土地区画整理施行の前後

施工前



設計図



## (2) 中心市街地周辺の主な地域資源

### 1) 歴史的資源

〔児玉家屋敷跡、児玉大将産湯之井戸〕

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』で知られる明治時代の陸軍大将・児玉源太郎は、嘉永5年（1852年）2月25日にこの地にあった児玉家の屋敷で生まれた。当時使用していた井戸が保存されており「児玉大将産湯之井戸」の標石がある。

児玉家は源太郎の父・半九郎の死後、源太郎が幼少であったため、浅見栄三郎の次男・次郎彦を養嗣子に迎え、次郎彦は後に源太郎の姉・久子と結婚した。次郎彦は藩の大目付等を務めたが、「正義派」の一人として活動したため、元治元年（1864年）8月12日早暁、「俗論派」によってこの屋敷の玄関で非業の最期を遂げた。次郎彦の死後間もなく、児玉家は藩の命令で家名断絶、屋敷は没収されたが、「正義派」が政権をとるや、慶応元年（1865年）7月13日、源太郎が家名を相続し、現在、児玉神社がある場所に新しい屋敷が与えられた。その後、源太郎は元の屋敷跡を買い戻して、明治36年（1903年）に郷里の後進育成を願い近代的な私立図書館「児玉文庫」を開設したが、昭和20年（1945年）、太平洋戦争中の徳山空襲で焼失してしまった。

〔児玉神社〕

児玉神社は、大正12年（1923年）に地元有志の発起により、児玉源太郎を祭神として創建された。社殿は、神奈川県江ノ島に建設されていた神殿と附属建物を移し、児玉将軍旧邸である現在地に建立したものである。境内には「徳山七士碑」、後藤新平の筆による「徳足以懐遠」、児玉源太郎薨去の際の「御沙汰書」、後藤新平の「児玉神社参拝記念碑」、歌碑「山縣元帥の児玉大将の死を惜しまれたる歌」など児玉源太郎ゆかりの記念碑が多数建立されている。

また、神社の西側の市道内には、大正14年（1925年）に台湾から贈られた珍しい松の木「タイワンゴヨウ」がそびえている。

〔徳山藩館邸跡〕

元和3年（1617年）に都濃郡・熊毛郡内の三万石あまりを領地として分け与えられた毛利輝元の次男・就隆は、慶安3年（1650年）、交通の便に恵まれた野上村に館を移し、地名を「徳山」と改めた。徳山は城下町として発展していったが、三代藩主元次の



とき、万役山事件をきっかけに本藩と争ったことから、正徳6年（1716年）に幕府の命令で藩が取りつぶされることになった。幸い、家臣や領民の献身的な運動により3年後に藩の再興が認められ、改めて城下の整備が進められた。藩主の館は現在の文化会館辺りにあり、桜馬場より北には家臣団の屋敷が建てられた。現在の銀座付近を中心に町が栄え、街道には多くの人々が行き交い、新田の開発や和紙など特産品の生産によって産業が発展するとともに、藩校「鳴鳳館」が設けられるなど、教育活動も盛んであった。

〔奈古屋蔵人（なごやくらんど）屋敷跡〕

徳山藩の家老・奈古屋蔵人の屋敷跡。宝暦8年（1758年）16歳のとき父の跡を受けつぎ、30年余にわたり、毛利広寛（ひろとも）、就馴（なりよし）の2人の藩主に仕えた。その間、江戸の藩邸につとめること8度、本藩にも度々出向くなど藩の発展に尽くし、特に藩校「鳴鳳館」の創設に尽力した。





## 2) 文化的資源

### 〔徳山動物園〕

旧徳山市の市制25周年にあたる昭和35年3月20日に開園した市立動物園。山口県内では唯一の本格的な動物園で、約50,000平方メートルの敷地内に141種、590点の動物を飼育しており、毎年市内外から30万人程度の来園者がある。敷地一帯は、徳山藩主毛利氏の屋敷があった場所で、園内は、毛利氏ゆかりの史跡があり、桜の名所としても有名である。

### 〔文化会館〕

徳山藩陣屋跡地に建てられた、1,800人収容の大ホールを有する市立の文化会館。優れた芸術の鑑賞や各種の文化活動の拠点として、コンサート、講演会、展示会、会議などに利用されている。天井や壁の全面をシルバーチェリー（南洋桜）で覆った大ホールの音響効果は高い評価を得ていて、西日本を代表する文化ホールとなっている。

### 〔美術博物館〕

市立の美術博物館。周南出身で日本を代表する写真家・林忠彦の作品を中心とした記念室、歴史展示室、郷土ゆかりの美術品・工芸品を広く集めたコレクション室を常設展示しているとともに、様々な企画展も開催しており、幅広い年齢層に人気がある。



### 3) 景観資源

#### 〔御幸通・岐山通〕

JR徳山駅前から北に延びる御幸通・岐山通は、戦後の戦災復興土地区画整理事業により整備された、本市のシンボルロードである。御幸通は、50メートルの広幅員道路で、“市の木”であるクスノキやヒマラヤスギ、イチヨウの並木が美しい通りであり、冬にはツリーまつりが開催される。県道下松新南陽線以北は、岐山通と名称を変え、文化会館や美術博物館等が立地する文化拠点に至っている。

#### 〔桜並木（市道德山港線～東川緑地公園）〕

文化会館・美術博物館から徳山小学校、東川沿いに至る桜並木道。沿道にソメイヨシノが植樹され、春には桜のトンネルを見るために大勢の人でにぎわう。

#### 〔徳山湾〕

瀬戸内海の穏やかな天然の良港である徳山湾では、湾岸部に広がるコンビナート群、仙島や黒髪島、大津島の島なみ、大小様々な船舶の行き交う風景などを楽しむことができる。晴海親水公園から眺める工場夜景は、平成23年に日本夜景遺産に認定され、本市ならではの新たな景観資源となっている。また、「周南コンビナート夜景ツアー」の開催等、この夜景を観光資源として活用した取組が始まっている。





#### 4) 社会資本

##### 〔JR徳山駅〕

徳山駅は、在来線の山陽本線と山陽新幹線の接続駅であり、櫛ヶ浜駅から分岐する岩徳線の列車も乗り入れ、広域交通と域内交通の交通結節点となっている。

昭和44年に民衆駅として完成し、営業を開始した。その後、市民の要望により在来線駅と新幹線駅との併設になり、在来線は3面4線の地平ホーム、山陽新幹線は2面2線の高架ホームとなっている。平成15年以降は、新幹線「のぞみ」の停車駅となっている。

また、新幹線7番ホーム（下り）の壁はほぼ全面がガラス張りとなっていて、隣接する瀬戸内海、徳山港への眺望に配慮されている。

##### 〔徳山下松港〕

徳山下松港は、山口県周南市・下松市・光市にわたる港湾である。港湾管理者は山口県で、国際拠点港湾に指定されている。瀬戸内工業地域の一角である周南コンビナートや周辺の工場群と各地を結ぶ拠点港湾として機能している。平成15年4月に総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定され、海上静脈物流とリサイクル産業の拠点形成に向けた取組が進められているほか、平成23年5月には国際バルク戦略港湾に選定され、石炭の輸入拠点としての整備が進められている。

平成23年6月には、本市が地域再生計画「周南市産業活性化計画」の認定を受け、港湾機能の強化等に関する取組を促進・支援している。

また、徳山下松港からは、大分県国東市竹田津港へのフェリー（周防灘フェリー）が発着するほか、大津島への離島航路（大津島巡航）が運行されている。





# <中心市街地周辺の主な地域資源>

